

分類名[野菜]

1 ニンニクの大量増殖法

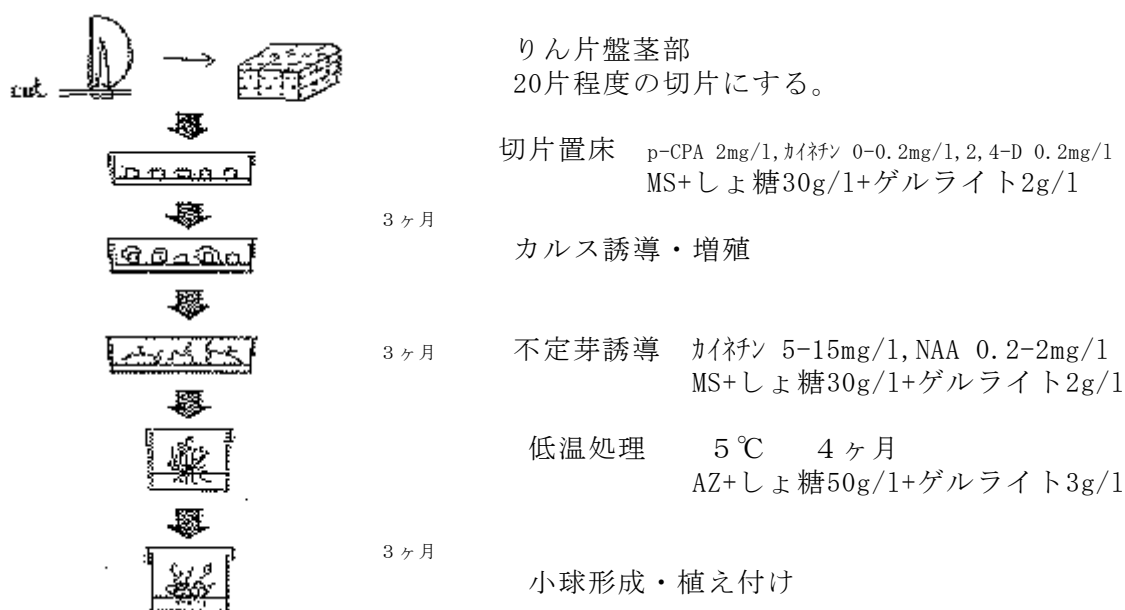
農業センター

1) 取り上げた理由

宮城県で栽培されるニンニクの種球は他県からの購入がほとんどであり、生産費を押し上げている。一方、県内には独自にウイルスフリー球を生産しているJAもあるが、増殖に時間がかかり、生産者への配布が遅れている。そこで、組織培養を利用した増殖方法を検討した結果、これらの問題に対応可能な成果が得られたので普及技術とする。

2) 普及技術

(1) ニンニクは下記の方法により効率的な大量増殖が可能である。



3) 対象地域等 県下一円

4) 特に留意すべき事項

(1) 実施にあたっては植物組織培養に関する基礎知識の取得と、培養関連の施設設備が必要である。

5) 背景となった主要な試験研究

- (1) 研究機関及び担当部科名
- (2) 研究課題名及び研究機関

農業センターバイオテクノロジー開発部種苗工学科
地域特産作物の大量増殖技術の開発 (平成3～7年)
育成系統検定 (平成8～9年)

(3) 参考データ

表-1 培養収穫球の特徴 (平成9・4作目)

区 別	供試数	球 重		りん片数	
		平均 (g)	標準偏差	平均 (g)	標準偏差
カルス由来球	83	59.3	19.36	7.2	1.60
茎頂培養球※	30	55.0	16.86	6.7	1.42

※ 茎頂培養球は平成5年にJA中田で茎頂培養し、平成8年農家に配付した種球。

表-2 順化時の小球の形態と収穫球 (平成9・2作目)

小球の形状	供試数	球 重		りん片数	
		平均 (g)	標準偏差	平均	標準偏差
正常	51	52.0	22.64	5.9	1.48
極小	33	41.0	27.10	6.1	2.66
水浸状	44	52.2	25.35	5.9	1.84
不良	23	51.5	30.05	5.4	1.83

(4) 発表論文等 なし